

本学教員執筆書籍の紹介

監訳 岩瀬三紀、佐藤直樹、長谷部直幸 縦 256 × 横 182mm 187 ページ

判読 E R 心電図 – 実際の症例で鍛える – 応用編

西村書店（東京） 2011 年 6 月 30 日発行 定価 3,360 円

長谷部 直 幸

循環器が専門ではない某内科教授が言った。「心電図やレントゲン写真は、ひとたび所見を見落とすと訴えられる危険性は高い。そこで最も重要な事は・・・検査しないことである。」なるほど、しかし救急外来（E R）ではそうは行かない。「昨日先生が診察して帰宅させたあの患者さんですが・・・」というフレーズが、良い結末を伝えるための前置きであることもまず無い。

心電図は、バイタルサインや理学所見と並んで E R の基本であり、決定的な情報を提供してくれる重要な検査である。本書は、多くの E R 心電図を提示しながら、見落としやすい異常、異常を見逃さない判読の工夫について解説している。心電図 1 枚で全てが解決するケースがある反面、心電図では判断しきれない異常があることも事実である。重要なことは、分かろうとする努力であり、その積み重ねが自信につながるのである。学生・研修医はもとより E R に携わる多くの医師にとって必携の解説書である。原本は Dr.Mattu と Dr.Brady の名著“ECGs for the Emergency Physician”である。基本編に次いで出版された応用編であり、左脚ブロックにおける虚血性 S T 変化の解釈など、かなり難易度の高い内容も含んでいる。繰り返し解説される心電図所見を判読するうちに、心電図の判読に自信が持てるようになり、飛躍的な臨床能力の向上が期待

される。

本書は、私の米国留学時代の恩師であるハーバード大学教授、ニューイングランド霊長類研究所 心臓部門の Stephan F Vatner 教授が取り持つ縁で完成したものである。彼のもとには、世界各国から研究者が集まっていたが、時期は異なるものの彼の元で学んだことを縁として、岩瀬三紀先生（トヨタ記念病院副院長）、佐藤直樹先生（日本医科大学准教授）と共著で本書を出版できたことを心から嬉しく思っている。また、私と共に学ぼうとする旭川医大の第一内科循環器の研修医諸君（二村麻美君、平井俊浩君、浅野目晃君、松尾彩君、伊達歩君）にも訳者に加わってもらい、心電図の判読を学びながら本書の作成に携わってもらうことができた。若手の研修医諸君と勉強しながらその課程を本として刊行することは、私のかねてからの夢でもあり、その意味でも本書の刊行は大いなる喜びでもあった。最後に、各研修医に分散した作業を集約し、洗練された翻訳として完成させる作業を担ってくれた佐藤伸之准教授の労をねぎらい、心から感謝の意を表するものである。

本書が、一人でも多くの臨床医の臨床能力の向上に資する事を願ってやまない。

（旭川医科大学 循環・呼吸・神経内科学教授）